

平成25年度 自立心を育む体験プログラム
教育事業「～海から山へ塩の道をたどる～」

1 趣 旨

能登から乗鞍へ塩の道をたどる旅を通して、地理や歴史を学ぶと共に5泊6日の宿泊体験を通して自立心を育む。

2 ねらい

- ・ 集団宿泊体験を通して自立心や協調性を養う。
- ・ 塩の道をたどり様々な見学・体験活動をすることで、能登・飛騨地方の歴史や文化を学ぶ。

3 日 程

(1) 期 日 平成25年7月24日(水)～7月29日(月)【5泊6日】

(2) 参加者 32名(石川県16名,岐阜県16名) ※募集各15名(計30名)

(3) 研修内容及び講師

7月24日 (水)	午後	○開講式・入所式 アイスブレイク 指導:能登青少年交流の家職員 ○実習「スノーケリング・海洋活動(大型カヌー)」 指導:能登海洋ふれあいセンター職員・能登少年自然の家職員 ○振り返り 指導:能登青少年交流の家職員・ボランティアスタッフ
7月25日 (木)	午前	○実習「スノーケリング・海洋活動(大型カヌー)」 指導:能登海洋ふれあいセンター職員・能登少年自然の家職員
	午後	○実習「製塩体験 揚浜式塩作り」 指導:すず塩田村職員 ○実習「はがき作成」 指導:能登青少年交流の家職員
7月26日 (金)	午前	○実習「地引き網体験」 指導:栗木 信義 氏 ○実習「魚さばき体験・野外炊事」 指導:能登青少年交流の家食堂職員・能登青少年交流の家職員
	午後	・能登交流の家を出発 岐阜県高山市乗鞍青少年交流の家へ移動 ○学習会
7月27日 (土)	午前	・乗鞍バスターミナルへ移動 ○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師:瀬木紀彦氏
	午後	○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師:瀬木紀彦氏 ○実習 はがき作成 指導:乗鞍青少年交流の家職員
7月28日 (日)	午前	○講義・演習「塩の道・能登式製塩土器について」 講師:押井正行氏 ○実習「野外炊飯 カレーライス」 講師:乗鞍青少年交流の家職員
	午後	○実習「製塩土器による塩づくり」 指導:乗鞍青少年交流の家職員 ○実習「キャンプファイヤー」 講師:乗鞍青少年交流の家職員
7月29日 (月)	午前	○閉講式・退所式 ・乗鞍交流の家を出発 石川県金沢市へ移動
		・JR金沢駅着 解散

4 成果と課題

(1) 事前・事後アンケートによる事業評価

この体験活動における教育効果を図るために I K R 評定用紙を使い、アンケート調査を実施した。その結果、事前・事後調査・事前・追跡調査において「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の全ての項目において、その向上に有意差が見られた。総合的な結果として「生きる力」の変容を見ることができた。

参加者のほとんどが、明確な目的意識をもって参加し、互いに尊重し合うなど、心の育ちが見られる児童であったため、顕著な優位性は見られなかったが、全ての項目において数値の向上が見られた。

(2) 成果と課題

《成 果》

- ・ 海洋活動(スノーケリング・大型カヌー体験)、製塩体験、登山、野外炊飯などの活動を計画的に配置したことで参加者の心の成長が見られた。海洋活動を通して自然の中で互いに心を開き、製塩活動に取り組む中で徐々に協力し合うようになった。剣が峰頂上を目指して共に励まし合い、全員登頂したことで信頼関係が生まれた。野外炊飯では、その信頼関係の中で、それぞれの役割に進んで取り組んだ。本事業の中で見られた、初対面の相手とも信頼関係を築く、自分の役割に進んで取り組もうとする等の参加者の姿は、本事業が「生きる力」を育てるために有効であることを示した。
- ・ 事業を通して、講師やボランティア等様々な大人からの指導があった。よい活動にしようとする説明を真剣に聞き、適応行動をとるなど、好ましい変化が見られた。体験の中で人とかかわる機会を位置付けた活動が、心理的社会的能力を高める機会となった。

《課 題》

- ・ 雨天の中ではあったが海洋活動を行った。魅力ある雨天プログラムの考案や安全を第一に考えた活動の判断基準を明確にする必要がある。
- ・ 海辺ならではの特色ある体験を行うために、石川県立能登少年自然の家などと連携を図った。移動の時間が長くなるなど参加者への負担が増えた。効率よい日程の工夫を考える必要がある。



実習 『スノーケリング・海中散歩』



実習 『乗鞍剣が峰登山』